

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和6(2024)年度第2回みよし市地域公共交通会議		
開催日時	令和6(2024)年9月18日(水曜日) 午前10時から午前11時30分まで		
開催場所	みよし市役所3階 研修室1・2・3		
出席者	【会長】 松本幸正 【副会長】 伊藤久司 【委員】 久野正博 久野文仁 甲斐ミチコ 上原真人 野澤雄二 新谷千晶 山田浩昭(代理 杉浦光) 鈴木哲也 岡本重之(代理 渡邊博之) 小林裕之 小島康史(代理加藤水竹) 山口直毅(代理 関谷昭一) 中村雄太 宮川高彰 高井勇輔(代理 柳原義弘) 石屋義道(代理 藤原太陽) 増岡浩仁 【事務局】 都市建設部長 都市建設部都市整備専門監 都市計画課長 都市計画課副主幹 都市計画課副主幹 都市計画課主事		
次回開催予定日	令和6年11月頃		
問合せ先	都市建設部 都市計画課 (0561) 32-8021 toshi_k@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
審議経過	《議事》 1 会長あいさつ 【都市計画課長】 本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 本日の会議は委員の過半数以上の方にご出席いただいておりますので、「みよし市地域公共交通会議の設置に関する規約」第6条第2項の規定を満たしていますので、会議が成立していますことをご報告させていただきます。 ただいまから、「令和6年度第2回みよし市地域公共交通会議」を開催いたします。 会議の開催にあたりまして、松本会長よりごあいさつをいただきたいと思います。 会長よろしく願いいたします。 【会長】 皆様、おはようございます。 まだまだ暑い中でございます。先週、学会がありましてスウェーデンに行ったのですが、元々スウェーデンは涼しい国ですので大学の教室にエアコンがついていない。北海道大学の先生も同じようなこと言っており、北大もすごく暑いのですが、北大はそもそもエアコンがついておらず、学生さんたちも背に汗をだらだらかきながらノートをとっていると言っていました。そんな異常気象だなと思っています。 行った町が人口10万人弱なのですが、そこにはトラムが走っています。BRTというのですが、バス路線がものすごく充実していて、人口が9万人の町にBRTが走っていて、バスがたくさん走っている。まだまだ日本は遅れているのか逆に進んでいるのかわかりませんが、やるべきことがあるなと思いました。		

日本と同じように、やはり最後のラストマイルの問題が非常に大きな問題になっています。みよし市でも色々な取組を行っております。家からバス停まで、あるいはバス停から最後の目的地までの交通手段というのをちゃんと整備して、公共交通で気軽に出かけられるような、そんな環境をつくらないといけないと思っております。いろんな取組がみよし市で行われておりますので、更に良い取組ができるように、皆さんのご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【都市計画課長】

ありがとうございました。

それでは、議事にまいりたいと思います。会議の進行は、本会議規約第6条第1項の規定により、会長が議長を務めることとなっておりますので、松本会長お願いいたします。

2 報告事項

(1) みよし市地域公共交通計画改定に係るアンケート結果について
(参考資料：資料1)

【会長】

それではここから私が進行を務めさせていただきたいと思います。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

お手元の次第に従って進めてまいりたいと思います。本日は報告事項だけでございます。

まずは1件目、「みよし市地域公共交通計画改定に係るアンケート結果について」ということで、ご報告をお願いいたします。

【都市計画課主事】

それでは資料1をご確認ください。

こちらは今年度のみよし市地域公共交通計画改定に取り組んでいる中で、実施しましたアンケート調査の結果についてご報告になります。本会議ではアンケート結果を一部抜粋したものを報告しますのでご了承ください。

アンケートの結果について説明します。2種類のアンケートを実施しまして、(1)市民アンケート調査と(2)バス利用者アンケート調査になります。

1つ目の(1)市民アンケートにつきまして、調査対象は15歳以上の市民2,700人、調査方法は調査票を郵送で送付し、回答を郵送またはWebでお願いしております。回収につきましては1,019票、回収率は37.7%となっております。参考までに5年前の結果は下段のとおりとなっております。

2つ目の(2)バス利用者アンケート調査につきましては、調査日として、さんさんバスと名鉄バスにおいて平日、休日の各1日ずつ設けまして、名鉄バスについては名鉄バス株式会社様にご協力いただき、星ヶ丘豊田線と愛教大線で実施いたしました。調査方法につきましてはバスを利用いただいた方に降りる際に封筒で調査票を直接渡し、後で郵送またはWebで回答をいただく方法となっております。

下の表は、配布数と回収数がそれぞれ表のとおりとなっております。無回答というのはアンケートの中で名鉄バス、さんさんバスのどちらに乗車したかの設問に対して回答がなかった票の数となっております。

これからこれらのアンケートの結果を報告いたします。

2ページをご覧ください。まず(1)市民アンケートの調査結果について報告します。

①の回答者の年齢割合について、グラフの一番上にありますみよし市全体を見ますと、40～64歳までが最も多く、どの地域においても同様の傾向となっているのがわかります。

続きまして、1枚とばしていただいて、4ページの③をご覧ください。

こちらは免許返納後に利用している、もしくは利用したい手段についてのアンケートになります。みよし市全体ではさんさんバス・乗継タクシーが約84%と最も多く、次いで、徒歩、家族などの送迎、となっております。地域別にみていただきますと、おかよし地域のみさんさんバスに次いで多いのが、名鉄豊田線となっており、駅が近くにあるおかよし地域の特性が結果で表れたと考えております。

続きまして、5ページの④について公共交通に知っていることというアンケートをとりました。下のみよし市計のグラフの項目をアンケートで羅列しまして、知っていることに関して○をつけてもらうという調査を行いました。公共交通の認知度としましては、「さんさんバスが走っていること」、次いで、「名鉄電車の駅があること」が多くなっております。こちらの5ページ、6ページとそれぞれ地域別のデータとなっているのですが、5ページのおかよし地域については「名鉄電車の駅があること」が97.3%と多くなっております。6ページのみなよし地域などをみていきますと、「市内を名鉄電車の駅があること」が79.8%となっております。こちら地域別で、おかよし地域については電車があることなどを含め、認知度の違いが出た結果となっております。

続きまして、7ページの⑤については公共交通全体の満足度について調査しました。公共交通全体ということで、電車、バス、タクシー全ての交通機関についてになります。みよし市全体を見てみますと、少しだけ「不満」と「やや不満」と回答した割合が「満足」よりも多い結果となっています。地域別にみていただきますと、北部につれて「満足」、「やや満足」の割合が増えていく結果となっているのがわかります。

続きまして12ページの⑨をご覧ください。

こちらはさんさんバス・乗継タクシーを利用し始めた時期という調査でありまして、回答項目としては令和4年度にさんさんバスの路線再編を行いました。その路線再編と利用についてという設問になっています。半数以上は「再編前から利用していない」という回答でしたが、再編後の利用について注目しますと、グラフの赤の「再編後から利用している」といった割合が、紫の「再編後から利用しなくなった」という回答よりも少し多い割合となっております。再編によって全体としても利用する方が増えたというのが結果として表れております。

次、14ページの⑪名鉄バス、さんさんバスに期待する役割の重要度という設問で、みよし市計のところをみていただきますと、下の11項目、①～⑪から期待する役割を1番目、2番目、3番目と選んでいただきました。その1番目を3点、2番目を2点、3番目を1点と点数化しまして、各項目に集計した結果がグラフとなっています。

14、15ページは名鉄バスに期待する役割の結果となっております。名鉄バスに期待する役割として、みよし市全体を確認したところ、「⑧自動車などを利用できない方や、できなくなった場合の交通手段」が最も大きい点数の結果となっております。地域別ではおかよし、きたよし地域は⑧の「自動車が利用できない場合の交通手段」が最も多い結果となっておりますが、なかよし、みなよし地域については④の「鉄道の駅へ行くための交通手段」が最も大きい結果となりました。これについては現状の鉄道駅の位置についても反映されるような結果となりました。

続きまして、次の16、17ページにつきましては、さんさんバスに期待する役割を表したグラフになります。

みよし市全体としてみますと、⑧の「自動車などを利用できなくなった場合の交通手段」が大きく、次いで、②の「買い物をするための交通手段」が大きい結果となっております。地域別にみましても全体と同じく⑧の「自動車が利用できない」、②の「買い物をするための手段」が期待する役割として挙げられています。この結果から、名鉄バスの先ほどの結果と比べて、それぞれのバスの特性に応じた期待する役割となっております。

次に18、19ページにつきましては各公共交通別に今後の利用の頻度について

の結果です。

左上から名鉄豊田線、下の名鉄バス、19ページでは上がさんさんバス、下はタクシーといった結果のグラフです。それぞれ見比べると、さんさんバスの「増える、やや増える」といった回答は他の公共交通機関よりも大きくなっているのがわかります。先ほどの期待する役割の設問でさんさんバスに期待する役割として、「買い物」「通院」の手段が多くありました。こういった今後の期待とつながる結果となったように見えます。

続きまして、22ページをご覧ください。

これまでは無作為抽出で回答いただいた市民アンケートの結果のご報告でしたが、22ページからはバスを利用された方に回答いただいた利用者アンケートの結果になります。

これまでは無作為抽出で回答いただいた市民アンケートの結果のご報告でしたが、22ページからはバスを利用された方に回答いただいた利用者アンケートの結果になります。

23ページから26ページまでは、細かい理由ごとに分けて名鉄バス、さんさんバスの路線毎にそれぞれの満足度5段階で評価をしたグラフになります。乗っていただいたバスの5段階評価です。①が「総合的な満足度」となっておりまして、こちらを抽出して見ますと、回答者合計もどの路線についても「満足」「やや満足」という回答が「不満」「やや不満」といった回答を上回る結果となっております。こちらは、市民アンケートの結果では名鉄バス、さんさんバスの満足度につきましては「不満」「やや不満」が多い結果となっておりますが、利用者につきましては「満足」「やや満足」が多い結果となっているのがわかりました。そもそも不満がある方は乗らないといったことも考えられますが、乗ってみると満足するといったことや、日常的に使われている方は満足いただいている方が多いのかなという風に感じました。

最後に27ページから28, 29, 30、こちらも同じ設問になるのですが、さきほどの設問で「やや不満」「不満」と回答した項目について、それぞれどういった譜面な内容、そしてそのアイデアなどを記載していただいた方の割合になります。全体もそうですが、各路線全て1番多い割合となっておりますのが、②の「運行本数」になります。こちらが最もその不満に対して色々なアイデアを記載された方が多い結果となりました。

以上、アンケート結果の報告になります。

今後、これらの結果をもとに考察を行い、課題となるべきものを精査、抽出し計画改定に落とし込む予定であります。また、今回まだ集計中でお出しできませんでしたが、乗降調査についても集計いたしましたので、次回以降の公共交通会議で合わせて委員の皆様にご確認いただく予定としておりますので、よろしくお願いします。

以上で報告事項(1)を終わります。

【会長】

ありがとうございました。

全てではございませんが、重要なところを中心に説明させていただいております。

この件に関しまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【久野委員】

26ページのくろまつラインの「①アンケートを受け取ったバスの総合的な満足度」で8割の方が「満足」「やや満足」とご回答いただいています。くろまつラインというのは、比較的、利用されている方が満足されているのだなということがわかるのではないかと思います。ぜひ、くろまつラインの方にもなるべく今後力を入れていただくと、移動難民の方たちの利用協力になるのではないかと感じました。

【都市計画課主事】

今回、特にくろまつラインの「①総合的な満足度」が満足が大きい結果として現れましたが、それぞれバスによって目的などが違った形になりますので、次の「不満」「やや不満」といったところをまた、路線別に確認しながら調査していきたいと思います。

【会長】

ありがとうございました。

先ほどの事務局の繰り返しになりますが、9ページのところを見ていただきますと、市民の方、全体に対しての満足度は、さんさんバス・乗継タクシーというところをみますと、「満足」「やや満足」よりも「やや不満」「不満」の方が高いということとなっています。ところが利用者を中心に見てみますと、先ほどのくろまつラインのところにありました、25, 26ページになりますが、ガラッと変わって、「満足」「やや満足」が多い。すなわち、今、久野さんに言っていたとおり、利用されている方々にとっては満足なのだという事になっております。

満足とを感じる方だけが使っているのだというような解釈、逆に不満を持っている方は使っていないということもあるかもしれませんが、少なくとも使っている方々は今のサービスで十分という風に考えていただいている方もいるということで、私たちが考えるのはそちらをしっかりと耳を傾けていかなければいけません。まず使っている方々に満足いただく、その次に使っていない方々にも使ってもらえるようなという取組を今後していかなければなりません。

くろまつラインでいうと年齢層が高いです。22ページを見ていただくと、くろまつラインというのはいいいじゃんライン、さつきラインに比べますと年齢の高い方のご利用が多い。この辺りの方にとってはありがたい、日々の生活の移動手段になっているということではないかと思います。

その他、いかがでしょうか。

【新谷委員】

1ページにアンケート調査の回収率があるのですが、この中で（2）のバス利用者アンケートの回収率で、さんさんバスの利用者は29.6%というのが少し残念です。利用して、このアンケートを基に色々改善しようという為のものであるにも関わらず、この回答率はさみしいと思いますので、ここのところをなんとか改善するような方策を、原因を考えていく必要があるのではないかと思います。

なにか原因は事務局の方で把握されているようでしたら教えていただきたいです。

【都市計画課主事】

調査方法につきましては、5年前の策定時と同様で、利用者に降りる際にお願いしてお渡しする形です。

もう少しバス車内等でのお願いの仕方等の部分で工夫があれば良かったかと、今ご意見をいただいて感じております。

今後、もしこういった調査がある際は、いろんな方法で他の周知、依頼方法を考えていきたいと思います。

ちなみに前は、全体で19.8%となっております。

【松本会長】

では前回とそんなに変わってないですね。

【都市計画課主事】

前回、全体の集計としてはさほど変わりはありません。

【会長】

ありがとうございます。

私の印象としても、3割は決して悪い数字ではないなと思っております。ただ、もう少しあってもいいかなと思うのですが、22ページの利用者の年齢分布を見てください。

さんさんバスで見ますと、65歳以上の方々は約4割ちょっとくらいであり、回答率は結構高いです。ところが、それより20歳未満の方、特に若い方々はあまり返してないです。従って名鉄バスさんは若い人たちが多いので、どうしても回答率が下がってしまうという結果になるわけですが、さんさんバスも全体でみると、それほど高齢者の方ばかりではないということで3割ぐらいになってしまいます。

みよしに限らず、こういったアンケートの回収率は下がってきておりまして、なかなか難しい時代に入ってきているなと思います。そんな中で、それなりに回収はできているのだらうと思います。そういう意味では、市民アンケートの方が昨年は55%あったのが37%ということで、だいぶ下がってきている。それはやっぱり時代を反映した結果になるのかなと思います。

【都市計画課主事】

前回策定時の回収率が55.1%ということで、今回は途中で1度、はがきをもってお礼と、回答していない方はぜひ回答をお願いしますといった、追って連絡をしております。

そのため、今回はそれも含めて、前回1102票回収しているので1000票回収するにはという逆算しまして2700人、当初の数を増やして今回1019票回収となりました。そうした形で有効数を得たという認識であります。

【会長】

調査の制度という観点から1000票ぐらいの回収が必要であると。方法としては、途中ではがきを出して今一度催促するという方法もありますが、これはコストがかかるからと、最初からウェブを含めて対象者を多くし、その結果必要な1000票を獲得したということですね。

従って、関心度という意味ではそんなに変わっていない。前回は催促のはがきを出したから回収率が見かけ上で上がっただけで、きっと関心度という意味ではそんなに心配することはないでしょうということですね。

わかりました。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

【宮川委員】

市民アンケートの調査結果ですが、元々関心度が高い方がおそらく、回答されているのであろうという関係があるのですが、その中でも各交通機関の認知度を見てみると、利用したことはなくてもあることは知っていますとあります。まちによってはもっと少ないところがある中で、存在を知っているということがまず大事だと思いますので、そういう意味では、みよし市も含めて各交通機関の方々が頑張っている結果が出ているのではないかと考えております。

先ほど松本先生がおっしゃいましたが、回答者の年齢層が18歳未満の方は15歳～18歳なので少なくとも当然なのですが、18～39歳の方の回収率が少ないというのは、この方々の関心度がちょっと低いところが現れているのかなと思いますので、その辺りの関心の喚起を図るとともに、その人たちがどういうことを考えているのかなというのをまとめていくのが、今後の計画の策定の中に必要となっていくのかと思いますので、分析をしていきたいところです。

【会長】

ありがとうございました。

今後、施策等々を打つ場合には、年齢別にこの年代にこんな取組をしないと

いけないみたいなものを考えなければいけない。そういった際に、今言った年齢の分析等々もぜひ進めていただければと思います。

ありがとうございました。

今、宮川委員が言っていた5ページですが、事務局は知っているものを着目して説明いただいたのですが、知られていないのを見ていただくと、結構皆さん知っていないなというのがわかると思います。使っていないからしょうがないと思うのですが、さんさんバスに乗り継げる乗継タクシーがあることを知っているのは5割を切っています。半分以下の方ということになります。それから、自宅からバスで行くことのできる施設となると、これも半分近くに、バス停があるのは知っているのですが、どこに行けるかが知らないということになります。それから、タクシー運賃に対して運転免許返納割引がある。これは若い人たちは知らなくてもいいですが、やはりこういうのもちゃんと皆さんに知っていただくということが、子供が知ってそれを親に伝えるということも期待できるので、そういう意味で周知不足のこともあるのかなという風に感じますので、こういうのを今後の施策につなげたらと思います。

先ほど今後の利用というところでご説明いただきましたが、コロナ禍で大変利用が落ち込んでいて、もう今後100%には戻らないだろうと言われております。18、19ページで今後の公共交通の利用ということで、それぞれ、名鉄豊田線、名鉄バス、さんさんバス・乗継タクシー、タクシーと出させていただいております。これを見ると、タクシーの利用や、さんさんバス・乗継タクシーなどは今後増えるというのが多いので、さらなる利用増というのが期待できます。名鉄電車も、やはり他の便利なところは増えるということですので、それをこのまま鵜呑みにするのであれば、全く戻らないわけではなくて、多少なり期待のできる結果ではないのかなと。さらに年齢別に見ていただくと、あるいは目的別なんかで見ると面白い結果が出るのではないかなと思う。決して悲観しなくてもいいかなと、どんどん減るということではなくて、ちょっと安心しているということになります。

先ほどの説明だと省かれましたが、20ページ、21ページ、各施設への移動でどれほど困っているかというものを調べたものであります。ざっと見てもらいますと困っていない方が大半を占めておりまして、色々、不便だといわれるのではございますが、全体を見れば大体皆さん困らずに移動ができているという状況がここに上がっているかと思います。ただし、一部のところは、地区によって、あるいは駅への移動は結構困っている方が多く、飲食・娯楽も少し多めどというのが見えてきます。こういったところの移動というのを考えていく必要があるのだなということがわかりますが、全体としてはそれほど困ってらっしゃらないということが伝わったのではないかと思います。

その他いかがでしょうか。

また今後、色々分析を進めていきます。ありがとうございました。

(2) 地域の公共交通を考える住民懇談会の開催結果について (参考資料：資料2)

【会長】

では、(2)地域の公共交通を考える住民懇談会の開催結果について事務局からお願いします。

【都市計画課主事】

続きまして、地域の公共交通を考える住民懇談会の開催結果についてご説明いたします。資料2をご確認ください。こちららもみよし市地域公共交通計画の改訂に取り組んでいく中で、市民の意見を聞く場としまして、地域の公共交通を考える住民懇談会を開催しましたのでご報告いたします。

日にちにつきましては、8月25日日曜日、28日水曜日の平日、休日の各1日ずつ、場所は市役所で開催しまして、内容は同じのため、どちらかに参加いた

だく方向で開催いたしました。

参加者は、日曜日は11名、水曜日は23名となっております。

内容について説明させていただきたいので、3 ページ目の当日の会場の様子をご覧ください。

住民懇談会の内容としまして、冒頭に左上からみよし市建設部長より挨拶したのち、市職員事務局から今回の住民懇談会の位置づけ、そして先ほど資料1で説明を少しお話ししたアンケート結果の概略の説明をいたしました。

その後に公共交通会議会長である松本会長にみんなで取り組む地域公共交通という題でご講演をいただきました。第2部は、講演を聞いた後にグループ討議ということで各グループになっていただき、みよしの公共交通について話し合っていました。

その中で、各公共交通の良い点、改善点、そして改善に向けて自分たちができること、またはアイデアを考えて書き出していただきまして、最後に各グループの結果について発表し全体で共有するといった住民懇談会を開催しました。

そのグループの参加者がみよし市全体の公共交通について書き出した内容が、1、2 ページにある表の結果となっております。

3 ページを見ていただきまして、左側が参加者に懇談会終了後にアンケートをとった結果となっております。参加者の普段の公共交通の利用頻度について、そして住民懇談会の満足度についてのアンケートとなっております。

普段から使われている方や、たまに利用されている方に多く参加いただき、多くの方にご満足いただけた住民懇談会となる結果となりました。

その下が、懇談会の時間の都合であったり、終了後の各グループの意見を聞いた後に思いついたことなど、グループ討議で話せたことをアンケートに記載いただきましたのが真ん中の一覧となっております。そして、その下が住民懇談会の感想となっております。

この住民懇談会では、皆さんにざっくばらんに話していただきまして、意見をいただいております。改善点など、各公共交通機関にそれぞれ多く意見がありました。こちらについても、先ほどの報告事項1と同様に、事務局としてこれから計画改定に向けて、計画に載せるべき課題といったところも事業者様と打合せしながら精査する必要があると考えておりますので、よろしく願いいたします。報告(2)の説明は以上です

【会長】

ありがとうございます。

これに対して、ご質問、ご意見等ございましたら、またご参加いただいて感想などもお聞かせいただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

【新谷委員】

参加者が日曜日は11、水曜日が23人。この人数的なことについてはどのような感想か。ちょっと少ないかなと感じます。

何らかの形で事前に動員をかけるなど、もう少し人数を増えるような形で対応いただけると良かったかなと思います。

【都市計画課主事】

前前回の5年前が17、15名だったので、日曜日の11名が少し寂しい人数でした。市の方でホームページ、広報、それ以外にも新たにLINEといった色々な周知方法をさせていただく中で、もう少し利用のある若い高校生だったり、大学生だったりといった方にももう少し参加いただければ色々な意見があったのかなと思いますので、もう少し若い年齢層につきましても周知方法について考えていきたいと思っています。

【新谷委員】

私たち市民サイドとして会議に参加しているものは、なかなか公共交通というテーマ自体難しいので、勉強したいことが山ほどありますので、委員の方に一言いってくだされば、周りで関心がある人に声をかけて行くこともできたので、また今度こういう機会があれば、ご案内いただければと思います。

【会長】

ありがとうございます。

私も委員の方々にご案内申し上げたらどうでしょうかとお話したのですが、そうすると、どの委員の方にお声がけするかという線引きは難しく、行政の機関、交通事業者の方々にも案内せざるを得ない。そうすると、専門家の方々が来られるという住民懇談会という趣旨からいうと少し馴染まないから今回は委員の方々にはご案内を控えさせてもらったということでした。

例えば、次回から市民の委員だけにはご案内するとか、そういうのをやってもらったら良いですね。ぜひそういった形でご参加いただいて、またお声がけいただけるとありがたいと思います。

人数については、大変難しいです。公共交通だけでなく都市計画のワークショップだとか、何かその他にも色々な講演のワークショップだとか色々やるのですが、集まらないです。これはみよしに限らず、どこの自治体も困ってらっしゃるのだろうなという風に思っております。特に公共交通などテーマが難しいので、そういったものに自ら足を運んで、参加しようと思っている人はなかなか期待できないことが多い。そういう中で23人集まったのはよく頑張っていたのではないかなという気はしておりますが、一層増えていくようなそんな方策を考えていければいいと思います。

(3) おでかけタクシー実証実験の中間報告について

(参考資料：資料3)

【会長】

では、次の議題に移りたいと思います。

3番、おでかけタクシー実証実験に中間報告について、事務局からお願いします。

【都市計画課副主幹】

報告事項(3)おでかけタクシー実証実験の中間報告について説明いたします。

それでは資料3をご覧ください。

今回の実証実験期間は、令和6年6月から令和6年11月までの6か月間となりますが、お手元の資料は6月、7月の2月分の速報値となります。

左から順番に、予約申込数、予約数、利用数とありますが、予約申込数は実際に予約の申し込みがあった数、予約数は予約申し込みから予約に至った数、利用数は予約後に実際に利用された数となります。

予約申込数は令和6年度は715件、予約は692件、利用数は675件でした。利用数うち100件が初めて利用した方、つまり市民100名の利用がありました。予約申込のあった件数のうちの予約できた割合は96.8%でした。また、1日あたりの利用数を前回の実証実験と比較しますと、令和6年度は11.06人、令和5年度は11.73人とほぼ横ばいとなっております。

予約申込があったが予約できなかった、もしくは予約しなかったのは23件で、主な理由としましては、行先が市外であったため予約できなかった、利用の際にお願いしているアンケートが面倒で予約しなかった、今すぐに来てほしい、または希望する時間に車両の空きがなかったため予約できなかったといった内容でした。

また、予約をしたが利用しなかった17名につきましては、体調不良、用事ができた、予約はしたが予約時間まで待てない、家族に送ってもらうこととなった等、すべて利用者都合によるものとなります。

	続きまして、今回の実証実験では土日祝日を含むこととしておりますので、利用数の内訳として平日、土日祝と集計しております。内訳をみますと、平日は591名、土日祝は84名でした。 次に表の右側ですが、一日あたりの利用者数、運賃収入、市負担金額、運行経費等を記載しております。一日あたりの利用者数を昨年の実績と比較しますと少し減っているように見えますが、昨年度は平日のみ、今年度は土日祝日を含んだ1日当たりの平均利用者数の数字となっており、土日祝の利用数が少ないことが影響しています。また、今年度の実験における平日の1日あたりの利用者数は2社合計で14,07名、土日祝は4,42名となっており、平日の平均利用者数は昨年度実績と比較しますと増加しておりますが、最も利用が多かった2月と比較しますと減少しております。 運行経費合計、一人当たりの経費につきましては、今回、前回の利用数がほぼ横ばいといった中で、運行経費1ヶ月あたりの経費もほぼ横ばいとなっております。おでかけタクシー実証実験の速報値についての説明は以上となりますが、現在実証実験と合わせて実施しているアンケートの集計結果を含め、実験の結果を、今後の開催予定の交通会議においてご報告させていただきます。 報告事項(3)の説明につきましては以上となります。 【会長】 ありがとうございました。 それでは、この件に関しましてご質問、ご意見等ございましたら、お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。 愛知つばめさんはこれを運行していただいている、色々感じられることもあると思いますが、運用にあたって何か問題点等々は何かありませんでしたか。 【関屋委員】 特に問題点と言えるか分かりませんが、やはり使っていただく時間が午前中に集中致しますので、空車のタクシーが足りなくてご希望通りに配車が出来ず、お待ち頂く時間が長くなる事もございました。同様の理由で数件ですが、お断りせざるを得ないケースもありました。 【会長】 ありがとうございます。ただ、事務局の報告では、そういった配車ができなかったというのはほとんどなかったということでもよかったですね。 【都市計画課副主幹】 はい、件数としては少なかったです。 【会長】 そういうことですね。非常に少なかったということです。 一方で、待ち時間が予想以上に多かったのがキャンセルされる、あるいは自己都合で突然体調不良だとか、子供の送迎だとかでキャンセルがあったということですね。たくさん予約不成立という状況ではないということかと思います。 みよし市は利用時間は10時から17時であり、朝が外れているというのが非常に大きいところだなと思ひまして、朝のピーク時間帯はちゃんと普通のタクシーで、前日に予約をしていただいて利用いただけるということになったかと思ひます。 ちなみにこれ、1番右の1人あたりの経費というのは、どういう意味になりますか。 【都市計画課副主幹】 1両あたりの相談の経費となりまして、運賃300円も含まれている形になり
--	---

ますので、1件あたりの市の負担は、1件あたりの経費から300円を引いた形が、その1回運行にあたり市が負担する金額の平均値となります。

【会長】

すなわち、この1番右の列にある数値から300円を引いたのが税金で負担している額。すなわち、業者さん別は出さなくていいのですが、6月は約1,572円、7月は1,615円を1人あたり税金からもっていますと、こういう意味ですね。

こういうおでかけタクシーのような少量輸送の場合には、1人あたりの税金の負担額というのは非常に大きくなるという特性があります。さらに、これは利用者が増えれば増えるほど、これに掛ける人数になりますので、税負担というのは大きくなる、そういう仕組みになってしまう。コミュニティバスなんかの場合は、年間の支出が決まっていますので、利用者が増えれば増えるほど税負担は減っていくという、そういう仕組みであります。

ただ、重要なのは、今回はバスに乗れない方、バスの利用が困難な方を対象とした交通システムであるということでありますので、そういう意味では、多様性ではありませんが、全ての方が市内を移動できるようにという意味で、そういった交通システムの提供だという風な整理だと思っております。

ちなみにコミュニティバスの場合1人あたりいくらですか。

【都市計画課副主幹】

さんさんバスでは349,815人が令和5年度に利用いただいたのですが、1人あたりの負担金は502.8円になります。

【会長】

それは運賃収入をひいてということですね。さんさんバスの場合は500円、こっちの場合は1500円。3倍ぐらい違うということですね。そういうことになります。ありがとうございました。

(4) 公共交通利用促進事業について（実施予定報告）

（参考資料：資料4）

【会長】

それでは、(4) 公共交通利用促進事業についてということで、事務所からお願いします。

【都市計画課主事】

公共交通利用促進事業についてのご説明をいたします。資料の4をご覧ください。こちらは今年度実施予定の利用促進事業についての報告をいたします。1つ目は、尾三地区自治体と交通事業者が連携した広域イベントの実施についてです。

本市では尾三地区内で協定を締結しておりまして、自治体間を超えた協働による魅力あるまちづくりを進めていくために連携事業を実施しております。そして昨年度は尾三市町とその運行事業者様、さらに名鉄バス様や名古屋鉄道様、タクシー事業者様と連携し、多くの関係団体様にご協力いただきまして、みよしのイオンでイベントを実施いたしました。場所や時期については、未定ではありますが、本年度も尾三市町で連携して、こういった同様の規模のイベントの実施をする予定をしております。

2つ目、乗り方教室の実施について。依頼がありました市内の小学校の生徒を対象に、バスの乗り方教室や役割について、実際にバスを用いて説明する乗り方教室を、運行事業者である愛知つばめ交通株式会社様と協力して実施する予定としております。今年度もすでに2つ小学校から依頼がありまして、10月に予定をしております。下にあります写真が昨年度の乗り方教室の写真となっておりますのでご覧ください。

3つ目がさんさんバスの日イベントの実施についてとなっております。3月の第3日曜日をさんさんバスの日と制定しておりまして、利用者増加を図るため啓発品配布、またぬり絵や缶バッジづくりといったワークショップをイオン三好にご協力いただきまして開催をする予定としております。昨年度のチラシを参考に掲載しております。昨年度は名古屋グランパスやトヨタベルブリッジのご協力をいただきまして、来店特典でコラボグッズのプレゼントなども行いました。今年度もさんさんバスの日というのを、より市民に周知できるように実施を予定しております。

以上で利用促進事業の報告となります。

【会長】

ありがとうございました。今年度もこのような利用促進事業を計画しているということでございますが、何かご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【久野委員】

さんさんバスのアナウンスというのですか、子供さんがやられて、すごくいいアイデアだと思います。やられる子供さんもすごく関心を持てるのですけど、どの程度の期間で次の方と交代するなどあれば聞かせていただきたい。

【都市計画課主事】

現在アナウンスしておりますのは、令和3年の11月にみよし市役所で市内の小学校5年生、6年生によって録音されたものになっております。今のところ、現在、いつこのアナウンスを変えるとといったことは考えておりませんが、そういったご意見等ございましたら、また、いろんな生徒に録音いただければ、より身近に感じてもらえると思いますので、検討させていただきたいと思います。

【副会長】

さんさんバスの日はいろんな意味で知っていただく機会と思っており、まだ少し先ですが、具体的にイベントの実施内容を何か考えていますか。

さんさんバスが走っていることをご存知の方は、先ほど調査の結果で見えると思うのですが、乗られてない方って結構いると思います。経費のかかる話なので、どこまで出来るかわかりませんが、例えば、このさんさんバスの日だけであったり、前後などを無料にし、1度とりあえず乗ってもらうというのは非常に大事なことに思います。今年やらなかったよう新たな事業というのは何か検討する可能性はありますか。

【都市計画課主事】

こちらのさんさんバスの日のイベントについては2年前から制定をしておりまして、初年度はさんさんバスの日にさんさんバスを無料で乗れる日として実施をした過去があります。さんさんバスが無料だから乗ってみようというひとつのきっかけとして、実施をすることもひとつ検討をさせていただければと思います。

【会長】

無料に関しては、2年前に確かに実施したのですが、運賃というのは非常に重要で、特に他の公共交通への影響というのが関係してきますので、さんさんバスだけ無料というのが本当に良いのかどうか、十分検討が必要だということで、昨年度は見送ったということでもあります。したがって、今年度、もしやるのであれば、さんさんバスだけではなくて、願わくは、他の公共交通についても同じような無料、あるいは軽減されるような、そんな取組を行えたら良いのかなと思います。ただ、そうすると交通事業者さんの協力が欠かせないという

ことですが、見解としてということですが、名鉄バス様いかがですか。さんさんバスの日に、例えば市内の名鉄バスの料金を割引くなり、無料にするなり、そのようなことは検討可能ですか。

【上原委員】

無料デーについてですが、今年度でいきますと春日井市で10月14日に市内を走る全路線の名鉄バスと他事業者も含めて無料デーを行うということをやっておりますので、施策的には可能となっております。ただ、課題としてはかなりたくさんございまして、特に精算面です。市内限定となると、どうやってそれを判定するのかというところもございまして、例えば定期券の救済はどうなるのか、無料デーをやると乗車人数が、他県の事例ですが1.5倍か2倍になります。そうすると、普段使いの方が乗れなくなってしまう、続行便をどうするかなど、課題はありますが、実現は可能かなと思います。

【会長】

はい、ありがとうございます。春日井でやられてということですので、そういった情報を収集しながら、ぜひ前向きにご検討いただければと思います。当然、これは税金を使って補填しなければいけないので、この会議の中で簡単に決めることはできませんが、一度事務局でご検討いただければと思います。そして、伊藤委員が言われたように、この日は無料だなど、バス乗ったり、行先を調べてもらうだけでも、ひとつ良いきっかけになっていきますので、ぜひ、そういった形でこの日は無料になるという日を実現いただければと思っています。ありがとうございます。

その他、いかがでしょうか。

【久野委員】

イオンでバスが6台並んでいる写真ですが、イオンに行ってこれを見た時にちょっと感動するような場面もあります。そういった観点から言って、例えば、10月13日のみよしのスポーツ祭などでもキッチンカーを呼んでお客さんを呼ぶということをしますが、そういった機会を利用して、市民の方にさんさんバスの乗り方自体知らない方により多く知っていただくと、乗るお客さんも増えるような気がします。

【都市計画課主事】

例えば産業フェスタなど、市の他の部署のイベントについてもなるべく分析して、バスを身近に感じてもらう機会としてバスを提供したりするような方向で、今、検討させていただいております。またそういった他イベントでも、部署をとおして、場所や事業者等との調整も必要になると思いますが、積極的にそういった機会を一緒になってやっていけることを進めていきたいと思っています。

【会長】

ご提案ありがとうございます。せっかくそうやって人が集まる、たくさん集まるところがいい機会になりますので、そういった機会に可能であれば乗り方教室も含め、バスの説明や写真撮影など大変人気があるとお聞きしますので、そういうことも、ご協力をいただきながらできればいいかなと思います。

ちなみにさんさんバスの日は3月の第3日曜ですから、令和7年3月16日に予定されると思います。ぜひ市民委員の方々は、この日を皆さんに各組織の方で周知いただければと思っています。まだ内容は定まっておりますが、この日がさんさんバスの日になるということは、ぜひご周知いただければと思っています。それから、具体的に何をやるかというのは今から検討ということでございます。昨年というグランパスなどとコラボもしております。

また、何かアイデアがありましたら、ぜひお寄せいただければと思います。

よろしいでしょうか。
バス協会さんもお協力いただきますか。

【都市計画課主事】

そうですね。先ほどの1番目の尾三地区の自治体のイベントについては、バス協会さんだったりとか、運輸支局さんにも色々ご協力いただきましたので、またお声がけさせていただければと思っております。

また、さんさんバスの日も啓発品の方はバス協会さんからお送りいただいたものを配布させていただいておりますので、どういう形は実施するかまだ決まっていますが、ぜひご協力いただければと思っております。

【小林委員】

協力させていただきます。

【会長】

ありがとうございます。タクシー協会さんは何かご協力いただけることないですか。

【加藤委員】

そうですね。これまではタクシー協会は呼ばれていませんでした。

ちなみに今年から知立市ではタクシー協会も呼ばれていますので参加をしています。また、お声がけいただければご協力できることもあるかと思えます。

【都市計画課主事】

ぜひご協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

アンケートを見てもらうと、さんさんバス・乗継タクシーとなっており、乗継タクシーはさんさんバスの一部ですので、ぜひタクシー協会さんにもご協力いただきまして、そのところをフィードバックしていただくとともに、協力して一緒にやれればと思います。

では、事務局から各協会、市民委員さん、愛知県さんへご協力の日にも決まり次第、しっかりとお願いしたいと思います。それから、内容については今後しっかり詰めていただいて、皆さんにいいね、面白いねというふうに言ってもらえるように頑張ってください。ありがとうございました。

(5) その他情報提供

【会長】

それでは(5)その他情報提供です。

愛知県さん、エコモビ実践キャンペーンについて、お願いします。

【藤原委員】

今回、このエコモビ実践キャンペーン2024っていうのについてご案内をさせていただきます。愛知県では、車と公共交通、自転車などを賢く使い分けるライフスタイル、エコモビリティライフを県民活動として推進しています。その一環として、県内の企業や団体の皆様にエコ通勤をはじめ、エコモビに積極的に取り組んでいただくキャンペーンを実施しております。皆様方におかれましても、ぜひ、ご参加いただくとともに、企業、団体の皆様への参加の働きかけなどにご協力いただきますように、よろしくお願いいたします。

参考としまして、対象は県内企業、各種団体、官公庁になりますので、よろしくお願いいたします。問い合わせ先に関しましては、都市交通局の愛知県庁交通対策課モビリティサービス推進グループが窓口となりますので、よろしくお願いいたします。私からは以上になります。

【会長】

ありがとうございます。企業、あるいは団体は、このキャンペーンにご参加いただいて、電車・バスで通勤を促進したり、自転車等々を使ったり、あるいは車の相乗りなんかをやりますよというのを実施いただければよろしいわけですね。そして、それを登録してもらうということになりますので、ぜひ、皆さんにご参加いただければと思います。ありがとうございます。

では、続きましてバス協会から小林委員、お願いします。

【小林委員】

このチラシは今回で9回目となる合同就職説明会でございます。バス業界はコロナ前から、ドライバー不足を最重要課題として取り組んでまいりましたが、コロナがあり、また、この4月から運転手の労働時間の見直しなどもありまして、より一層ひっ迫して運転手不足になっているという状況でございます。今回については最大の企業数の参加で、東海4県でも22社、合計で35社が参加していただける就職説明会になっております。

今、特に貸切バスでいいますと、この繁忙期になりますと小中学校をはじめとして、旅行の時期が重なるものですから、全てにおいて対応できない場合も今後出てくるのではないかと。こういうこともありまして、ドライバー不足も深刻化して、各社、協力を求めているものでございますので、皆さん、ぜひ、ご興味のある方々にお知らせをしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。ぜひ皆さん、周りの方々にご周知いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では事務局から報告事項1件お願いします。

【都市計画課主事】

報告事項を1件説明させていただきます。

5月の第1回公共交通会議の協議事項において、乗継タクシー乗降場の新設についてという議題で、三好丘緑に新たに乗降場を設置することについて、委員の皆様にご協議いただきまして承認いただいたことがありました。

その中で、新たに設置、運行を開始していくにあたり、手続きの流れについての説明を中部運輸局愛知運輸支局様よりご説明をいただきたいと思います。

【宮川委員】

まず前提のお話として、バス事業的なものについては新しく走る場所を決めたり、新しいエリアを走ったりする場合には、事業者の方から国に届け出、ないしは届ける手続きをしていただくことになっております。

これについては基本的には、前回協議いただきましたタクシーの乗降場所の増加に合わせて、その部分の新しいエリアを設定するというのが届け出の手続きについていまして、道の設定をしなければいけなかったというところがございます。これに伴い、事業者さんが新しいエリアを追加する手続きをしていただくにあたり、こちらの方に運賃の届け出をしていただくため、昨年10月からは運賃協議会というのを開催し、そこで運賃を決めていただくことになっております。この件がありましたので、みよし市さんの方に、書面協議という形で運賃協議会の開催をお願いしたところでございます。

この先はみよし市さんからご説明があるかと思いますが、そのような形で、こういった新しいエリアとか、新しい路線とかがある場合については手続きが必要となって、昨年10月からは公共交通会議ではなくて、運賃協議会というところで運賃を決める必要になったということになっております。よろしくお願いいたします。

【都市計画課主事】

ありがとうございます。今ご説明いただいたとおり、運賃協議会を開催しまして、その運賃協議会で協議が整った事項については、この公共交通会議に報告するといった必要もあります。ただ、本来でしたら前回の会議で皆様に運賃協議会を開催する旨をお伝えすべきでありましたが、今回、事後報告となったことについてお詫び申し上げます。

先ほど、委員の方からお話がありました協議会の開催について、書面開催としまして、9月9日から17日までを期間としまして、議題として、乗継タクシー乗降場「三好丘緑地区」の新設に伴う運賃について、全構成員から「異議なし」とご回答いただきましたことを報告いたします。

新たに設置する緑地区の乗継タクシーは、市内の他の乗継タクシーの運賃同様、さんさんバス含め100円で運行することと承認をいただきました。

この会議後に、速やかに手続きを進めていく予定でありますので、よろしくお願いいたします。

以上が運賃協議会についての報告事項になります。

【会長】

全体を通しまして、何かご発言がございますか。

以上で予定の報告事項、全て終了でございます。

たくさんの意見をいただきまして、いただいた意見を基に、検討を進めていただければと思います。

どうも皆さん、ご協力ありがとうございました。

では、進行を事務局にお返しいたします。

【都市計画課長】

それでは、長い時間にわたりまして、皆さん、ご協議いただきましてありがとうございます。

様々な視点からたくさんのご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。今度も、より良い公共交通の実現に向けまして、関係機関の方々とも調整しながら進めていきたいと思っております。

次回の会議の開催につきまして、お知らせいたします。

今回は、11月11日月曜日、午後1時30分から予定しております。

ご案内につきまして、後日送付させていただきますので、ご確認いただければと思います。

それでは、これをもちまして令和6年度第2回みよし市地域公共交通会議を終了いたします。どうもお疲れ様でした。

—閉会—